

水害

- 関連
WEBサイト
(4ページ参照)
- 気象庁 高解像度降水ナウキャスト
 - 気象庁 大雨警報(浸水害)の危険度分布
 - 気象庁 洪水警報の危険度分布

雨の降り方と強さ

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上	110mm
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	記録的短時間大雨情報
人の受けイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(気象台が発表)

※今いる場所で雨が降ってなくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

局地的大雨に注意

局地的大雨は、発達した積乱雲に伴って発生します。短時間のうちに雲がもくもくと大きくなって周囲が薄暗くなるようなときには、災害が発生する可能性が高まっていることを意識してください。

次のような現象を確認して危険を感じたら、すぐに身の安全を確保しましょう。

- 真っ黒い雲が近づき、あたりが急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷の光が見えたりする。
- 急に冷たい風が吹く。
- 大粒の雨やひょうが降り出す。



雷から身を守る

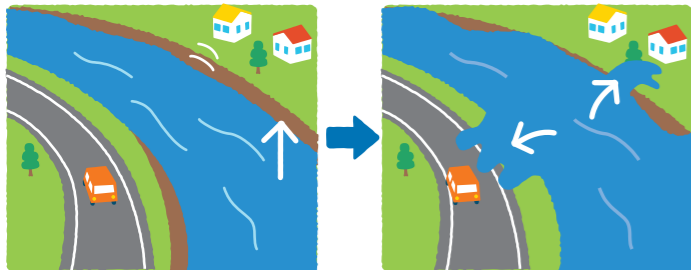
- 雷鳴が聞こえたらすぐに避難。
- 建物や屋根付きの乗り物へ避難(木の下は危険!)
- 屋内でも感電する場合がある(電気の配線、水道管など)。
- 木や電柱から4m以上離れ、姿勢を低く。



はんらん 氾濫の種類

はんらん 外水氾濫

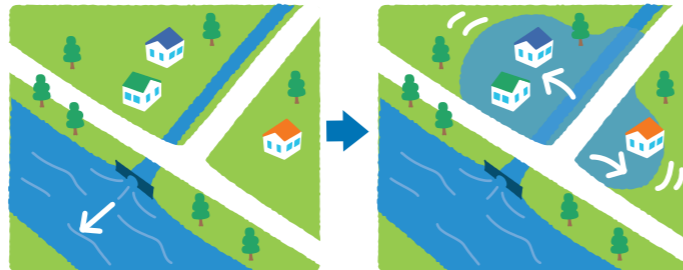
本流から水があふれて起きる浸水などの氾濫



大雨によって川の水が増え、水位が上がり始める。

はんらん 内水氾濫

水路などから水があふれて起きる浸水等



平地に降った雨は、側溝や水路などを通して川に排水される。

側溝や水路の排水能力を超える大雨が降ると、側溝や水路からあふれだし、道路や宅地が浸水する。

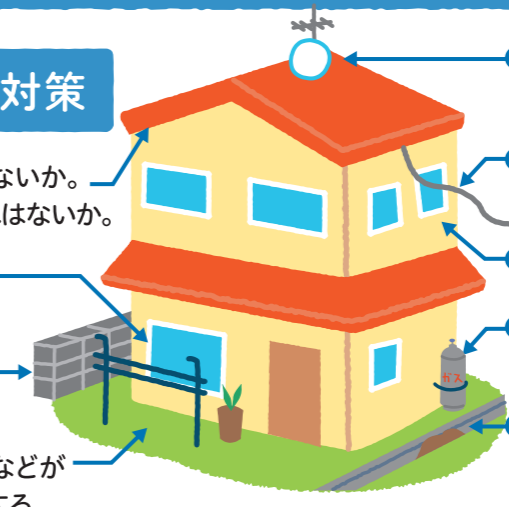
※外水氾濫より内水氾濫の方が先に発生することが多いため、避難の際はハザードマップを参考に経路の選定をしましょう。また、内水氾濫発生箇所は、側溝のふたが外れたり、水路等が見えなくなり転落の恐れがあるため、通行の際は注意が必要です。

水害に備えて

事前の備え

家の周りの安全対策

- 瓦の割れ、ずれ、はがれはないか。トタン屋根のめくれ、はがれはないか。
- 窓枠のがたつきはないか。ひび割れはないか。
- ブロック塀にぐらつきや亀裂はないか。
- 物干し竿、植木鉢、自転車などが風で飛ばされないようにする。
- アンテナ、看板などは、針金などを使って補強しておく。
- 電気の引込線のたるみや破損があったら、電力会社に連絡する。
- 外壁に亀裂はないか。
- プロパンガスボンベが固定されているか確認する。
- 雨どいや水路などのゴミや泥、落ち葉などを取り除き、水はけを良くしておく。



危険が迫ってきたら

リアルタイムに色で分かる危険なところ!!

QRコードからも確認できます



洪水警報の危険度分布 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>



中小河川の洪水災害発生危険度の高まりを、5段階に色分けして示す情報です。避難にかかる時間等を考慮して、3時間先までの雨量予測値(10分ごとに更新)を用いており、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



色が持つ意味	説明
極めて危険	過去の重大な洪水発生時に匹敵する基準をすでに超過。 重大な洪水災害がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。
非常に危険	中小河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害となる可能性が高い状況。 氾濫危険水位等を超えたら速やかに避難を開始する。
警戒(警報級)	中小河川が増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害となる可能性がある状況。 避難判断水位等を超えたら避難の準備をして早めの行動を心がける。高齢者等は速やかに避難を開始する。
注意(注意報級)	ハザードマップ等で避難行動を確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。

※気象庁ホームページより(一部加工)

いざ、避難

水害時の注意点

- 動きやすい服装で ヘルメットで頭を保護し、運動靴をはきましょう。裸足・長靴は危険です。
- その他の注意点
 - ・橋はなるべく渡らないようにしましょう。
 - ・大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。

●足元に注意

浸水すると足元が見えなくなり、側溝やマンホールに気付きにくくなるので、長い棒などを杖代わりにして歩きましょう。



●逃げ遅れた場合は

50cm以上浸水している場合や夜間の避難は非常に危険です。自宅の2階など高いところに避難して安全を確保してください。

